

2016 年度聖書の集い（第 10 回）

2017 年 3 月 1 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

1、聖歌 522 番 「神ともにいまして」

2、お祈り

3、聖書 「マタイによる福音書 28：16～20（新約聖書 60 ページ）

4、今日の内容

心に留めたい聖書のことば

⑩「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

毎年、3月の聖書の集いでは、「神ともにいまして」を歌うようにしています。それは卒園式でも歌うから、という理由もありますが、この歌詞に込められた意味をご一緒に分かち合いたいからです。

今日は今年度の聖書の集いの最終回です。いつまでも子どもたち、そしてみなさんに覚えておいて欲しいことを、語らせていただきます。

① 歌詞の意味

「神ともにいまして」の歌詞の意味を分かりやすくしてみました。

神ともにいまして（神さまと一緒にいて）

ゆく道を守り（これからの人生を守り）

あめのみ糧もて（天から恵みを与え）

力をあたえませ（力をあたえてください）

またおう日まで（またいつか会える日まで）

またおう日まで（またいつか会える日まで）

神の守り（神さまのお守りが）

なが身をはなれざれ（あなたの元にありますように）

荒れ野を行くときも（一人寂しく歩く時も）

嵐吹くときも（逆風の中、進めない時も）

みつばさのもとに（神さまが広げた翼の中）

守り育みませ（守り育ててください）

いぶせき雲覆い（うっとりしい雲が覆い）

ゆき悩むときも（歩くのが大変なときも）

愛の光もて照らし（やさしい光で照らし）

なぐさめませ（わたしを慰めてください）

み国に入る日まで（天国にいくときまで）

み恵み豊かに（たくさんのお恵みのもとに）

行くてを示して（進む方向をお示し下さり）

絶えず導きませ（いつも共に歩んで下さい）

② 共に歩むということ

わたしたちが孤独の中にいるとき、どんなことでわたしたちは安心するでしょうか。誰かが一緒にいてくれること、それが一番なのかもしれません。赤ちゃんが、いつもそばにいるお母さんの存在を確かめながら、安心して眠りにつくように。

同じように子どもたちの多くは大人になるまで、大人の見守りの中、歩んでいきます。しかし成長するにつれ、「独り立ち」と称して自分で歩くように言われていきます。でも本当に、それがゴールなのでしょう。

教会や学校で様々な人と関わっていきながら気づかされることは、自分の居場所がないと感じている人（大人も子どもも）がたくさんいるということです。安心できる場所がなく、話を心から聞いてくれる人がいない。「孤独」の中にたくさんの人がいるように思います。

③ 「あしあと」

去年も紹介した「あしあと」という詩があります。わたしたちは苦しいときに、一人ぼっちだと感じるかもしれません。本当に助けてほしいときに、誰かそばにいて欲しいと叫ぶこともあるでしょう。

でもいつも、どんなときもそばにいてくれて支えてくれる。歩けないわたしたちを背負ってくれる。それが神さまなのだということを、心の底にそっとしまっておいて欲しいのです。神さまは必ず共にいてくださいます。子どもたちとも、そしてみなさんとも。

卒園される方々、どうぞお元気で。またいつでも、お会いしましょう。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から
日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から

＜2017 年行事予定：詳しくはホームページに更新していきます＞

4 月 16 日(日)10 時半～ イースター礼拝
5 月 14 日(日)10 時半～ 伝道開始 100 年・礼拝堂聖別 80 周年記念礼拝
6 月 18 日(日)11 時～ 親子礼拝
8 月 教会キャンプ
11 月 5 日(日) オリーブまつり（バザー）
11 月 19 日(日)11 時～ 子ども祝福式
12 月 25 日(月)午後 こどもクリスマス